

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「話したいな、好きな時間」

2 単元の目標

話の中心と具体例の関係を捉え、言葉を使う場面で役立てる。中心・出来事・結びの発表メモに自分の判断と理由を表す。友達の応答や自分の記録を基に、言葉の捉え方や表し方を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話の中心と具体例の関係を理解し、学習で扱った語句や例を示して説明している。（〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(2)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話している。（A(1)ア・A(1)イ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、話の中心と具体例の関係を中心に学ぶ。好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(2)アとA(1)ア・A(1)イに関係する学習である。成果は、作業が終わったかのほかに、中心・出来事・結びの発表メモにどんな判断の理由が残るかで捉える。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

予想される難しさは、楽しいという感想を重ね、詳しい出来事を話さないことである。中心の言葉を見える所へ置き、出来事の候補から一番よく表すものを選ばせる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想で、実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○話の中心と具体例の関係に関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す中心・出来事・結びの発表メモの内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。
第2次	2～5 （本時は5時）	○好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話す。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○その出来事は、好きな理由をどう表していますかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	6	○中心・出来事・結びの発表メモを仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



6 本時の指導 (5/6)

(1) 本時の目標

話の中心と具体例の関係について、例や資料を根拠にした自分の考えを中心・出来事・結びの発表メモへ表すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「その出来事は、好きな理由をどう表していますか」 【めあて】話の中心と具体例の関係について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・図書の時間が好きな理由を、新しい本に出会った出来事で伝える。 ・初めの見方では決められない箇所もあり、例を比べてみたい。	本時に使う具体例が見える所へ置く。楽しいという感想を重ね、詳しい出来事を話さない姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話す。 3 中心・出来事・結びの発表メモの下書きや途中の記録を示し、考えた理由を説明する。 ○「その出来事は、好きな理由をどう表していますか」 4 聞き手は、説明に使われた語句や資料を示して質問する。答えが異なる所は、意味や条件を調べてもう一度表す。 〈予想される児童の反応〉 ・図書の時間が好きな理由を、新しい本に出会った出来事で伝える。 ・最初はそう考えたが、別の例と比べると直したいところが見つかった。	中心の言葉が見える所へ置き、出来事の候補から一番よく表すものを選びせる。 説明が難しい児童には、対象の語句を選ぶ、線や矢印で関係を示す、口で説明するという方法も用意する。書く量を減らす場合も、本時に考える言葉の関係は残す。早くできた児童には、同じ説明が通らない場合や、他の言い方の可能性を考えさせる。 ◎思① 好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話している。(途中の記録・説明)
まとめ (分)	5 中心・出来事・結びの発表メモへ、本時の判断と理由、見直した箇所を記す。 【まとめ】図書の時間が好きな理由を、新しい本に出会った出来事で伝える。 6 初めの答えとの違い、または理由を確認して残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・話の中心と具体例の関係を、別の場面でも意識して使いたい。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。その出来事は、好きな理由をどう表していますかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知① (語句や関係の説明) ・態① (見直しの理由。単元を通した記録と合わせる)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、中心・出来事・結びの発表メモで、本時に選んだ語句や説明の理由を表している姿とする。楽しいという感想を重ね、詳しい出来事を話さない場合は、中心の言葉が見える所へ置き、出来事の候補から一番よく表すものを選ばせる。発表の回数や作品の飾り方は評価の根拠にしない。

(4) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には話の中心と具体例の関係を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に中心・出来事・結びの発表メモで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に確かめたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

